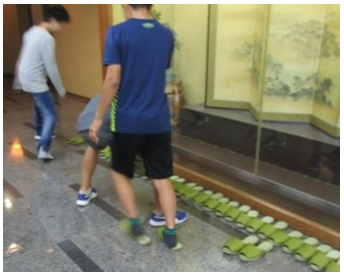
Ｒ元塩川小学校　校長室だより　元年7月1日(月)No.3

さわやか

「できない」のではない、「教えられていない」のです


他校のスリッパを揃える！

　トイレのスリッパが乱雑に脱ぎ捨てられています。子ども達は、それがダメなことはわかっています。わかっていることができないのです。
　ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）の考え方は、「あの子はできない」と、その子の技量や性格を取り出して、子ども自身の問題に転嫁することはしません。「正しく教えられていない」と、指導者の視点でできないことを考えます。
　また、ＳＳＴ指導のポイントは、「できないこと」を注意するのでなく、正しく教えて、できたことをほめ、よい行動を増やしていくことです。

スリッパを揃えて脱げるようにするSSTの指導は、こんな具合に！！

１　スリッパを揃えて脱ぐのは、なぜですか？（思考）
　〇次に履く人が履きやすい。〇揃っていると気持ちがよい。など、「揃える」意味や価値を引き出します。
２　「次の人が履きやすいように脱ぐ」「気持ちよく揃える」には、どうすればよいですか？（行動）
　〇お尻から出るように脱ぐ。〇スリッパを揃えて脱げたか確認する。など、具体手な行動を子ども達に考えさせます。また、その方法が効果的なのかを話し合わせます。
３　「２」で考えたやり方を、実際にやってみましょう。
　できれば、トイレに行き実際にさせてみます。時間はかかりますが、一人一人にやらせます。教師や他の子は、揃えて脱げた事を肯定的に評価します。
４　やってみて、感じたこと、考えたことを発表しましょう。（感情）
　書く、発表する活動を通して、自分の気持ちや考えを明確にさせます。ペアや全体で発表し、気持ちや考えを全体で共有します。
５　学校でも家でも、そのやり方をやってみましょう。
　行動化と一般化を促進します。身に付くまで一週間くらいは、帰りの会で振り返りをします。この時、できている子をほめましょう。できてない子は、トイレで練習し、できることをほめましょう。

SST指導のポイント

　子ども達が主体的に考え、実行できるようにするポイントは、「思考」と「感情」と「行動」を関連づけることです。そして、子ども達の考えや行動をほめることです。
　できないことを「叱って」も、できるようになるのは一時的で、定着しません。「ほめる」ことで、適切な行いや考えを内在化させることがポイントです。
　子どもが、スリッパをきれいに揃えるようにするには、次の２つの行動がポイントです。
①　お尻から出て、スリッパを脱ぐように教える。
②　脱いだスリッパを、確認する。脱いだスリッパが乱れているときは、揃えなおすよう教える。

教室をきれいな状態して下校するシステムづくり

　教室の机が揃い、ゴミも落ちていない。窓の鍵も閉まったような、整頓されたきれいな状態で下校させるには、システム作りが必要です。そのシステムは、日直が次の３つを確認することです。
①　机は揃いましたか。椅子は入っていますか（全員が揃える）。
②　ゴミは落ちていませんか（全員が１つ拾う）。
③　窓の鍵は閉まっていますか（窓側の児童が確認する）。
　教師は、一つ一つできたことを確認し、できたことをほめることが大切です。できないまま、日直が次の指示を出させないようにすることも大切なことです。